

県立都市公園の今後の役割や方向性を明らかにし、中長期的視点で整備・管理運営における目標や方針、推進施策などを示す計画

（計画策定のポイント）

県立都市公園が有する既存ストックの有効活用、時代ニーズに応じたリノベーションや利活用プログラムなど、地域創生等に資する公園づくりを推進する施策、そのために必要な人材育成など持続可能なパークマネジメントを推進する施策を示す

県民の参画と協働の一層の推進など多様な主体との連携の工夫、社会変化を踏まえ、量的拡大から利用価値など質的な視点の転換を図り、「質」と「量」への適切な対応などに留意し、施策を示す

県立都市公園の担う機能、役割を踏まえた施策を示す
 ・一つの市町の範囲を超えた広域的な見地での機能・役割
 ・先導的な取組の実践など市町への参考となるモデル的役割 など

現状と課題

現状

- (1) 県立都市公園の整備
 - ・県立都市公園：15ヶ所、開園面積約1,130ha(H27.12時点)
 - ・一人当たり都市公園面積：12.4㎡/人(H26.3時点)→全国平均を上回る
 - ・市街地の緑地面積割合：30.6%(H25.8時点) → 目標3割を達成 など
- (2) 都市公園の運営管理
 - ・効果的・効率的な管理への取組：指定管理者制度を導入(H18～) → (現在)15公園全てで実施
 - ・県民の参画と協働の取組：管理運営協議会などを設置、各活動団体によるプログラム実施 など
- (3) 特徴的な取組 県立淡路景観園芸学校、淡路花博及び花みどりフェアの開催 など
- (4) 県立都市公園の整備費などの推移 平成7年以降、整備費・維持管理費とも減少傾向

課題 今後の都市公園における取組に関する主な課題(5点)

- 既存ストックの利活用など、時代変化を踏まえ「量」から「質」への転換
- 今後の方向性を踏まえた新たな目標設定
- 厳しい財政状況への対応(選択と集中)
- これまでの整備で増大した施設の老朽化への対応
- 施設の老朽化、ストックの利活用などに対応する公園の整備・管理運営の専門人材の育成や体制の確保

基本方針

- 計画期間**
 展望年次：2040(H52)、計画期間：2025(H37)
 概ね5年で見直し
- 基本的な取組姿勢**
 「ふるさと兵庫」のゆたかな暮らしを支える「公園づくり」に取組む
- 取組における留意点**
 ① 社会変化を踏まえた「量」から「質」への転換の推進
 ② 県民の参画と協働など多様な連携の工夫、公園のもつ多様性を生かす
- テーマと施策方針**
 これからの県立都市公園で取組む「5つのテーマと18の施策方針」

推進施策

5つのテーマ

I 活力あふれる地域づくりに資する公園
 (地域の活力・賑わい・元気で健康な生活)

個別目標の例
 ・赤穂海浜公園 塩の国の県外来場者割合 35% → 40%

II 子育てに資する公園
 (子育て支援)

個別目標の例
 ・子育て支援型公園における満足度 53% → 65%

III 環境との共生に資する公園
 (環境保全・創造への対応)

個別目標の例
 ・尼崎の森中央緑地での環境学習プログラム参加者数 年間3,700→7,400人

IV 安全安心な地域づくりに資する公園
 (安全安心への対応)

個別目標の例
 ・地域防災計画で位置づけのある公園施設の整備 未整備2箇所 → 整備完了

V 持続可能なパークマネジメントの推進
 (連携とマネジメントシステム等)

個別目標の例
 ・指定管理業務の利用者満足度 「満足・やや満足」割合 77→85%
 ・指定管理業務の外部評価の実施公園 6公園→15公園

18の施策方針

- ①：地域の活性化をもたらす公園づくり
- ②：地域文化の保全・継承、新たな芸術文化を創造する公園づくり
- ③：元気で健康的な生活に資する公園づくり
- ④：子育て世代を支援する公園づくり
- ⑤：子どもを育む公園づくり
- ⑥：3世代が楽しめる公園づくり
- ⑦：自然環境等を守り・生かす公園づくり
- ⑧：環境との共生を学ぶ場としての利活用
- ⑨：安全な暮らしを支える防災拠点としての利活用
- ⑩：安心地域づくりに役立つ公園づくり
- ⑪：誰もが楽しく安心して利用できる公園づくり
- ⑫：効率的な老朽化対策の計画的な推進
- ⑬：社会変化を踏まえたリノベーション等の推進
- ⑭：施設間連携、民間活力等の連携による効率的・効果的な事業推進
- ⑮：より良いサービスを提供する管理運営体制等の工夫
- ⑯：県民の参画と協働の活動を推進する仕組みの工夫
- ⑰：効果的な広報の推進
- ⑱：公園づくりの評価等の推進

主な取組

- ・観光拠点型公園の整備・活用
- ・スポーツ拠点公園の整備・活用
- ・文化財等を保全・活用する公園の整備・活用
- ・里山文化等を継承する公園づくり
- ・自然環境と芸術が織りなす新たな芸術文化を創造する公園づくり
- ・健康づくり公園の整備・活用
- ・くつろぎの公園の整備・活用
- ・子育て支援公園の整備・活用
- ・プレーパークなど子どもの育成に資する整備・活用
- ・子どもの環境教育に資する整備・活用
- ・3世代など家族で共に過ごせる公園づくり
- ・地域の高齢者と子どもと一緒に楽しめる公園づくり
- ・自然の樹林地等の緑を保全する公園づくり
- ・生物多様性の確保に資する公園づくり
- ・自然エネルギー等の活用推進
- ・園内発生材のリサイクル推進
- ・環境学習公園づくり
- ・防災拠点としての機能維持と利活用
- ・流域対策に資する雨水の貯留浸透機能を担う施設整備の推進
- ・防犯環境に配慮した設計の導入による安心な公園整備
- ・公園の利用者、地域と連携した防犯対策
- ・公園のユニバーサル化の推進
- ・巡視や安全点検の徹底、安全確保の改修等の推進
- ・長寿命化を図る対策の指針などの整備
- ・計画的かつ的確な老朽化対策の推進
- ・時代変化に対応したリノベーションの推進
- ・未整備区域などの今後のあり方の検討
- ・各種施設との連携による効率化・効能向上
- ・民間活力などとの連携
- ・有能な指定管理者の確保の仕組み
- ・サービス向上のための管理運営での連携
- ・県立淡路景観園芸学校の取組
- ・パークマネジメントを担う行政の人材の育成
- ・管理運営協議会の取組
- ・企業寄付金活用などサービス向上のための自主財源確保の検討
- ・指定管理者のインセンティブ導入などによるサービスの向上の工夫
- ・効率的なパークマネジメントのための新技術の活用
- ・社会変化を踏まえたメリハリのある維持管理の工夫
- ・公園を舞台とした県民の参画と協働の活動の総合的な仕組づくりの推進
- ・公園の利活用、整備等の企画等への参画
- ・時代に応じた手法を活用した広報
- ・多様な媒体、主体、地域等の連携による広報
- ・効果的な情報発信
- ・都市公園の取組
- ・ストック効果の情報発信
- ・利用者ニーズ把握と分析の推進
- ・公園の魅力向上につなげるPDCA評価と反映の実施

各施策の取組により目指す総合的な目標値

県民一人当たり都市公園の利用回数 2.2回以上/年
 (平成25年度実績 2.0回/年 の10%UPを目指す)